

# 南箕輪村の普通会計財務書類 4 表の概要（平成 2 7 年度決算）

■「統一的な基準」により作成

## 貸借対照表（B S）

●村の保有する学校、道路、現金などの資産がどれだけあり、その資産がどのような財源（負債、純資産）で形成されているかを表す財務書類です。

資産合計……3 6 1 億円

これまでに形成された道路・学校などの施設や基金・現金など、将来世代に引き継ぐもの。

### 【内訳】

固定資産……………3 3 4 億円

- ・有形固定資産（土地・建物など）
- ・無形固定資産（ソフトウェア・権利など）
- ・投資その他資産（出資金・基金など）

流動資産……………2 7 億円

- （現金、財政調整基金、未収金など）
- うち、歳計現金……4 億円

負債合計……5 5 億円

借入金（村債）や将来支払う職員の退職手当など、将来の世代が負担する債務

純資産合計…3 0 6 億円 ←

これまでの世代が既に負担してきた金額  
（ 純資産＝資産－負債 ）

## 行政コスト計算書（P L）

●1 年間に提供された、資産形成に結びつかない行政サービスに係る費用と、その行政サービスの直接の対価として得られた収益を対比させた財務書類です。

経常費用①……………5 3 億円

### 【内訳】

- ・人件費……………1 1 億円

（職員の給与、退職手当など）

- ・物件費等……………2 1 億円

（施設の維持管理費、物品購入費、使用料など）

- ・その他の業務費用……………1 億円

（起債償還利子、村税還付金など）

- ・移転費用……………2 2 億円

（社会保障経費、補助金、特別会計への繰出金など）

- ・経常収益……………2 億円（マイナスで積算する）

（行政サービスに対する受益者負担金、財産貸付収入など）

臨時利益、臨時損失②……………0 億円

純行政コスト（①－②）……………5 3 億円 ←

## 資金収支計算書（C F）

●1 年間の行政活動を、資金（現金）の流れから見たもので、3 つの活動（業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支）ごとに表した財務書類です。

期首（平成 2 6 年度末）歳計現金残高③……………5 億円

当年度歳計現金増減額④……………△ 1 億円

### 【内訳】

- ・業務活動収支……………5 億円

（支出：人件費、物件費、社会保障給付費など 収入：村税、地方交付税、国県支出金など）

- ・投資活動収支……………△ 8 億円

（支出：公共資産整備、基金積立など 収入：公共資産整備充当国県支出金、基金取崩しなど）

- ・投資・財務活動収支……………2 億円

（支出：村債償還金、リース代など 収入：村債）

→ 期末（平成 2 7 年度末）歳計現金残高……………4 億円（③＋④）

## 純資産変動計算書（N W M）

●貸借対照表の純資産が、1 年間にどのように増減したかを表す財務書類です。

期首（平成 2 6 年度末）純資産残高⑤……………3 0 9 億円

当期変動額⑥……………△ 3 億円

### 【内訳】

- ・経常行政コスト……………△ 5 3 億円 ←

- ・一般財源・補助金等受入……………5 0 億円

- ・その他……………0 億円

→ 期末（平成 2 7 年度末）純資産残高……………3 0 6 億円  
（⑤＋⑥）

※表示単位未満は、切上げ又は切下げにより書類間が整合するように調整している。